

# 波郷記念館 だより 第三十五号



江東区砂町文化センター  
〒136-0073  
東京都江東区北砂 5-1-7  
電話：03(3640)1751

発行日  
平成 29 年 3 月 20 日  
発行元  
江東区砂町文化センター

## 第十六回 はこべら俳句大会 授賞式

石田波郷をしのぶ「はこべら」俳句大会も今年で十六回目となりました。応募総数は三百五十一名、波郷をしのぶ句、四季雑詠とあわせて七百二句の投句がありました。三月十二日(日)に砂町文化センターの二階、展示ロビーにて行われた授賞式では、入賞された二十七名の方に

お越しいただき、各選者の先生からの賞状の授与ならびに句の講評がありました。また、三月十二日(日)～二十六(日)の間に入賞作品の展示も開催。多くの方にご来場いただきました。来年も、皆様からの投句を心よりお待ちしております。



### 「はこべら」賞 講評

＊病いと闘いながら生をまっとうした石田波郷。その生涯に思いを馳せながら作者自身が生かされていることへの感謝を詠っている。 (「棕」主宰 石田郷子)

＊病床で起き上がれずに飲む吸呑の水。それを甘いと感ずるのは癒えた証でもあり、生きたいという強い意志とも思える。 (「馬酔木」主宰 徳田千鶴子)

### 「はこべら」賞

＊「波郷をしのぶ句」の中で最高得点の句

吸呑みの水の甘さよ惜命忌

岩手県 井上宮子

石田波郷記念館賞 ＊四季雑詠の中で最高得点の句

舟形の漁師の墓や曼珠沙華

江東区 観音堂松雄



### 「石田波郷記念館」賞 講評

＊舟の形をした漁師の墓の傍に曼珠沙華が咲いている。その向こうには海原が輝いている。 (「百鳥」主宰 大串章)



# 平成二十九年度前期 春の講座 受講生募集

★お申込はこちらから★  
〇三―三六四〇―一七五二

## 俳句鑑賞講座

つくらない句会と  
文人俳句を読む

二〇一六年、「NHK俳句」選者、堀本裕樹氏厳選の名句から、参加者が選句していく「つくらない句会」と、気鋭の女性俳人、日下野由季氏による俳句鑑賞講座です。

夏目漱石や芥川龍之介、永井荷風から現代の川上弘美、又吉直樹まで、古今の人気作家の俳句を採り上げます。作家それぞれの個性や小説と照らし合わせて文人俳句を味わいましょう。



講師 堀本裕樹氏



講師 日下野由季氏

### ■日程・カリキュラム

七月 六日(木) つくらない句会

七月十三日(木) 文人俳句を読む①

七月二十日(木) 文人俳句を読む②

### ■時間

十八時三十分～二十時

\*初回のみく～二十時三十分

### ■受講料・教材費 (全三回分)

三五〇〇円・一〇〇円

### ■定員

二十五名

### ■講師

堀本裕樹(俳人)・日下野由季(俳人)

## 読み物 波郷のいた江東区の風景

「私の家の前の道を西に走ると、清洲橋へ出ます。清洲は橋としては淋れてるますが、隅田川はこゝで湾曲してるので上流下流の眺が面白いところです。上流右側に流口が見えるのが小名木川です。この小名木川を万年橋から番所橋まで十三の橋を潜って中川へ出てみたいといふのもかねてからの私の念願です。(後略)」

(橋本多佳子様)

「俳句研究」昭和二十七年十二月号より)

清洲橋近くに隅田川から分流する小名木川があります。小名木川は江東区内で一番最初に開削された川で、東西を一直線に中川まで流れており、その上を十三の橋が架かり様々な表情豊かな姿を見ることが出来ます。

波郷は橋本多佳子氏(「馬酔木」「天曜」同人、読売新聞俳壇選者)への手紙の中で、手近な所(隅田川など)での清遊が日頃の病鬱を払ってくれるとの思いを綴っています。

小名木川は療養生活を繰り返す波郷の心を癒してくれる川だったのかもしれない。

■写真：隅田川上流から清洲橋を見る(石田波郷記念館蔵)



## 石田波郷記念館 展示替えのお知らせ

石田波郷記念館「波郷をめぐる人々」コーナーの一部展示替えをおこないます。

### ●新展示資料●

\*現代俳人筆跡集 「ながきながき春暁の貨車なつかしき」

\*現代俳人筆跡集 「春雷の熄みし口洞閉づるかな」

\*直筆色紙 「強飯も濃き春色や誕生日」

二〇一七年四月一日～ぜひお越しください。



## 春 2017 Spring の講座 受講生募集

平成29年度 前期

「春だから始める、  
春だから見つける」

春から始まる講座のご紹介です。  
下記の講座ほか、様々な講座がご  
ざいます。

文学  
歴史

### 再考 明治維新と西郷隆盛

今年は明治維新から150年を迎えます。倒幕・新政府樹立に尽力した西郷隆盛(1828~77)は木戸孝允・大久保利通と並ぶ維新の三傑の一人です。この講座では西郷の生涯をもう一度見直していきながら、明治維新とはなんであったのかを再考していきます。



西郷隆盛像(上野恩賜公園)

- 講師:落合 弘樹 (明治大学文学部教授)  
◆金曜日・全5回・19:00~20:30  
5/12、5/26、6/9、6/23、7/7  
◆受講料:4,200円  
◆教材費:300円

子ども  
親子

### ~親子で標本作り~ 自然観察会

区内の公園にある植物や昆虫を観察し、昆虫標本作りに親子でチャレンジします。夏休みの自由研究に効果的です。



昆虫観察会の様子

- 講師:阿河 真人 (NPO法人ネイチャーリーダー江東会長)  
◆土曜日・全4回  
時間についてはお問い合わせください  
6/17、7/29、8/19、9/16  
◆受講料:3,600円  
◆教材費:200円

ダンス  
健康

### ヤング★ハワイアン

人気のハワイアンフラで心と体をリフレッシュ。明るいハワイアン音楽にのせて、ハワイの風を感じながら楽しく踊りませんか。美容と健康に役立ちます。年齢にかかわらず、気持ち若い人、若さを保ちたい人が集まってレッスンしています。新しい仲間大募集!



講師:高橋紫

- 講師:高橋 紫 (ブアナニ高橋スタジオインストラクター)  
◆水曜日・前期17回・19:00~20:30  
5/10、5/17、5/24、6/7、6/14、  
6/21、6/28、7/5、7/12、7/19、  
7/26、8/2、8/23、9/6、9/13、  
9/27、10/4  
◆受講料:13,500円

お申し込み期間

3/24 (金) まで

※はがき・FAXは24日(金)必着  
※定員を超えた場合は抽選となります。

※25日(土)以降は先着順にて受け付けます。詳しくはお問い合わせください。

お申し込み方法

①窓口 ※第1・3月曜日は休館日です。(ただし祝日は開館)

②電話 **03-3640-1751** ③FAX **03-5606-5930**

④はがき 〒136-0073 東京都江東区北砂 5-1-7

⑤インターネット <https://www.kcf.or.jp>

※インターネットからの講座申し込みには「受講生登録」が必要となります

はがき・FAX 記入例

- ① 砂町文化センター・講座名 ② 氏名・フリガナ ③ 生まれ年(西暦)・性別  
④ 郵便番号・住所 ⑤ 電話番号・FAX 番号

砂町文化センターの主催講座をきっかけに発足した自主グループと一般利用サークルとの合同作品展です。日頃の活動の成果をご覧ください。

ジャンル	グループ名	日程
書道	桂風会江風書道会	4/16(日)～4/22(土)
絵画	初めての油絵教室	4/23(日)～4/29(土)
絵画	絵画サークル 芽次知	5/7(日)～5/13(土)
手芸	さざんかグループ	5/28(日)～6/3(土)
工芸	ガラスアート とんぼ玉をつくる	5/28(日)～6/2(金)
絵画	穂有会俳画山岸教室たんぼぼ会	6/4(日)～6/10(土)
手芸	刺繍小物教室	6/11(日)～6/17(土)
絵画	スケッチ教室ワインの会	6/18(日)～6/24(土)
絵画	ドリーム絵画サークル	6/25(日)～7/1(土)
写真	砂銀シャッターズ	7/2(日)～7/8(土)
写真	わいわいフォトクラブ	7/9(日)～7/15(土)
書道	北砂書写教室	8/27(日)～9/2(土)

# 第13回 自主グループ・サークル 成果展

入場無料

会場 砂町文化センター 2階 展示ロビー  
 休館日 毎月第1・3月曜日  
 開催時間 9:00～21:00  
 ■1週間ごとに展示が変わります  
 ■いずれの展示も最終日は15:00まで

## すなまち クロスワード

第8回



Let's Challenge!

砂町や江東区についてのクイズが入っているよ!



たて

- 俳句鑑賞講座は、古今の○○○○○○の俳句を採り上げます。
- 俳句鑑賞講座では講師厳選の名句から参加者が選句していく「○○○○句会」を行います。
- 日本最古の木造建築、名刹・○○○○○。
- 小名木川と仙台堀川が合流する南側にあったのは「○○○○水門」です。
- 作家が詠む俳句のことを「○○○○俳句」といいます。

よこ

- 横十間川と仙台堀川が交差する東側にある水門を「○○○水門」といいます。
- 川親水公園には水門のモニュメントがあります。
- 石田波郷さんをしのぶ「はこべら」俳句大会も今年で○○○○○回目となりました。
- 4/16(日)からはじまる合同作品展は「自主グループ・サークル○○○○○」。



★こたえは  
このページ下です

### 地域コラム

## 砂町の懐かしい川と橋

- 最終回 水門 -

2回にわたり砂町地区の川と橋についてお話ししてきましたが、今回はかつて仙台堀川に設置されていた「尾高水門」と「桜井水門」について紹介します。

「尾高水門」は、横十間川と仙台堀川が交差する東側の辺りにありました。その水門のモニュメントが仙台堀川親水公園にあり、説明には「この部品は、砂町地区の水害を守るためにつくられた尾高水門の一部である。こ

の水門は、マイスターゲート式(観音開き)といい、この部品は、水害の心臓部に当るものである。(後略)」と記されています。水門は1939年設置され1982年に廃止となりました。

「桜井水門」は、小名木川に仙台堀川(砂町運河)が合流する南側にあった水門です。痕跡などは残っていませんが、仙台堀川公園入口に「辻みちるのべ旧桜井水門」の表示

があり、この付近に水門があったと思われます。

現在、砂町地区では水門は姿を消しましたが、新小名木川水門(隅田川の近く)など数箇所が現役として今も活躍しています。



尾高水門のモニュメント



公益財団法人  
江東区文化コミュニティ財団  
心にうるおい、地域ににぎわい。  
Koto City Culture and Community Foundation

発行  
江東区砂町文化センター  
〒136-0073 江東区北砂 5-1-7 TEL 03-3640-1751  
<https://www.kcf.or.jp>